



TITLE:

高等教育研究開発推進センター日誌・組織・教員業績(2008年4月～2009年3月)

AUTHOR(S):

CITATION:

高等教育研究開発推進センター日誌・組織・教員業績(2008年4月～2009年3月). 京都大学高等教育研究 2009, 15: 181-214

ISSUE DATE:

2009-12-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/97899>

RIGHT:

高等教育研究開発推進センター日誌

(2008 年 4 月 1 日～2009 年 3 月 31 日)

年 月 日	記 事
5. 8	2008 年度第 1 回 公開授業・検討会 主催：京都大学 FD 研究検討委員会 講義：山本 行男 高等教育研究開発推進センター教授 「生活と環境の化学」全学共通科目 B 群
5.14	高等教育研究開発推進センター運営委員会（平成 20 年度第 1 回）
6. 6	教授 小山田耕二 国際会議に参加、発表及び可視化技術に関する情報収集のためギリシャへ海外出張（6.11 帰国）
6.11	高等教育研究開発推進センター運営委員会（平成 20 年度第 2 回）
6.16	2008 年度第 2 回 公開授業・検討会 主催：京都大学 FD 研究検討委員会 演習：Craig Smith 京都外国語大学教授 「英語 II A (E2P02)」全学共通科目 C 群
5.21	教授 田中 毎実 FD 実践研究に関する調査のためアメリカへ海外出張（5.30 帰国） 教授 松下 佳代 同上 准教授 酒井 博之 同上 助教 河崎 美保 同上
5.25	教授 田地野 彰 国際交流課訪問及びギャラント教授とシンポジウム打合せ、ウォーカー教授とシンポジウム打合せ、Educational Linguistics 2008 にて講演のためフィンランドへ海外出張（6.1 帰国） 准教授 Dalsky David Jerome 同上
6.13	平成 20 年度科学研究費補助金・基盤研究（B）継続 「ボリュームコミュニケーション技術による遠隔協調研究支援環境の構築」 研究代表者：小山田耕二 高等教育研究開発推進センター教授 研究分担者：江原 康生 京都大学学術情報メディアセンター助教 伊藤 貴之 お茶の水女子大学理学部准教授

- 6.13 平成 20 年度科学研究費補助金・基盤研究（B）継続
「学習共同体の生成と個の学び―移動と固有名性に焦点をあてて―」
研究代表者：松下 佳代 高等教育研究開発推進センター教授
研究分担者：高木光太郎 青山学院大学社会情報学部教授
庄井 良信 北海道教育大学大学院教育学研究科教授
杉原 真晃 山形大学高等教育研究企画センター講師
平山 朋子 藍野大学医療保健学部講師
- 6.13 平成 20 年度科学研究費補助金・基盤研究（B）継続
「タンパク質の一分子計測を目指した新しいプローブ分子の開発」
研究代表者：山本 行男 高等教育研究開発推進センター教授
研究分担者：多喜 正泰 京都大学地球環境学堂助教
- 6.13 平成 20 年度科学研究費補助金・基盤研究（C）継続
「英語学術論文作成のための自律学習支援システムの構築―ESP 語彙リストに基づいて―」
研究代表者：田地野 彰 高等教育研究開発推進センター教授
研究分担者：寺内 一 高千穂大学商学部教授
金丸 敏幸 京都大学大学院人間・環境学研究科助教
- 6.13 平成 20 年度科学研究費補助金・基盤研究（C）継続
「歩行中の外乱に対する姿勢制御における生体情報解析」
研究代表者：小田 伸午 高等教育研究開発推進センター教授
- 6.13 平成 20 年度科学研究費補助金・基盤研究（C）継続
「単位制度の実質化を目指すカリキュラム評価方法の開発」
研究代表者：溝上 慎一 高等教育研究開発推進センター准教授
- 6.13 平成 20 年度科学研究費補助金・萌芽研究 継続
「微小粒子を用いたボリュームレンダリング手法の開発」
研究代表者：小山田耕二 高等教育研究開発推進センター教授
- 6.13 平成 20 年度科学研究費補助金・基盤研究（C）新規
「江戸末期に日本に伝わった中国伝統演劇に関する基礎的研究」
研究代表者：赤松 紀彦 高等教育研究開発推進センター教授
- 6.13 平成 20 年度科学研究費補助金・若手研究（B）新規
「ICT を活用した大学教員のための授業改善システムに関する研究」
研究代表者：酒井 博之 高等教育研究開発推進センター准教授
- 6.13 平成 20 年度科学研究費補助金・若手研究（B）新規
「認知行動的介入による気晴らしの接近的活用に関する臨床健康心理学的研究」
研究代表者：及川 恵 高等教育研究開発推進センター准教授
- 6.26 高等教育研究開発推進センター協議員会（平成 20 年度第 1 回）
- 6.26 高等教育研究開発推進センター運営委員会（平成 20 年度第 3 回）

7. 4 教授 小山田耕二 共同研究の成果報告のレビューのためマレーシアへ海外出張 (7.6 帰国)
- 7.10 准教授 Dalsky David Jerome e-Learning システムの視察、Writing Center の視察、第 6 回 Writing Center Summer Institute に参加及び資料収集のためアメリカへ海外出張 (7.27 帰国)
- 7.16 准教授 Stewart Timothy William ウィンザー大学・ブリティッシュコロンビア大学・ニューブランズウィック大学図書館にてデータ収集及び教材研究、資料収集、David Rehorick 教授と会議及び資料収集のためカナダへ海外出張 (8.14 帰国)
8. 2 大学生研究フォーラム 2008
共催：高等教育研究開発推進センター・財団法人電通育英会
挨拶 田中 每実 京都大学高等教育研究開発推進センター教授
松本 宏 財団法人電通育英会理事長
趣旨説明 溝上 慎一 京都大学高等教育研究開発推進センター准教授
基調講演 「これからの大学教育が育てるべき人間像」
梶田 叡一 兵庫教育大学学長／中央教育審議会副会長
パネルディスカッション第 1 部
「大学生のキャリア意識調査 2007 から示唆される現代大学生像」
司 会 溝上 慎一 京都大学高等教育研究開発推進センター准教授
パネリスト 中間 玲子 福島大学人間発達文化学類准教授
武内 清 上智大学総合人間科学部教授
下村 英雄 独立行政法人労働政策研究・研修機構キャリアガイダンス部門副主任研究員
浅野 智彦 東京学芸大学教育学部准教授
講演会
講演 1 「キャリア意識と大学教育」
金子 元久 東京大学大学院教育学研究科長／教育学部長
講演 2 「アメリカでのキャリア発達研究の理論的展開—なぜ進路指導からキャリア支援なのか—」
渡邊三枝子 筑波大学特任教授／キャリア支援室長
講演 3 「青年期論から見た大学生の成長—何が課題か—」
白井 利明 大阪教育大学教育学部教授
講演 4 「教科と連携をとって推進される総合的なキャリア教育を目指して」
牧野 亮 広島県立呉三津田高等学校教諭
パネルディスカッション第 2 部
「現代大学生像から見てくるキャリア教育への示唆」
司 会 下村 英雄 独立行政法人労働政策研究・研修機構キャリアガイダンス部門副主任研究員
パネリスト 川崎 友嗣 関西大学社会学部教授／キャリアデザイン担当主事
松下 佳代 京都大学高等教育研究開発推進センター教授
河村 能夫 龍谷大学教学部長／経営学部教授
久保 玲士 広島県立祇園北高等学校教諭
情報交換会

8. 5 大学院生のための教育実践講座—大学でどう教えるか—
開 会 式
挨 拶 東山 紘久 京都大学理事
趣旨とプログラムの説明
平出 敦 医学教育推進センター長
- 【Basic】
- セッション 1 グループ討論 1: (自己紹介)「大学授業をどう思うか」
セッション 2 ミニ講義 1:「大学授業の現在」
大塚 雄作 高等教育研究開発推進センター教授
セッション 3 ランチと自由討論
セッション 4 グループ討論 2:「大学授業で教師に求められるもの」
セッション 5 ボディーワーク:「他者とのつながり・自分とのつながり」
濱野 清志 京都文教大学教授
セッション 6 ミニ講義 2:「大学授業の課題」
酒井 博之 高等教育研究開発推進センター准教授
セッション 7 全体討論:「大学で教えるために」
セッション 8 ミニ講義 3:「大学で教えるために」
田中 每実 高等教育研究開発推進センター教授
- 【Advanced】
- セッション 1 全体討論: (自己紹介)「教える側からみた大学授業」
セッション 2 ミニ講義 1:「大学授業の現在」
大塚 雄作 高等教育研究開発推進センター教授
セッション 3 ランチと自由討論
セッション 4 ミニ講義 2:「大学授業をどう創るか」
松下 佳代 高等教育研究開発推進センター教授
セッション 5 模擬公開授業・検討会
セッション 6 テーマ別討論: (コースデザイン、授業技術、評価など)
セッション 7 全体討論
閉 会 式
挨 拶・修了証授与 東山 紘久 京都大学理事
閉会式終了後 情報交換会
- 8.22 第 78 回公開研究会
講演者: 川島 啓二 国立教育政策研究所 高等教育研究部 総括研究官
テーマ: 大学教育改善のためのセンター組織—教育ガバナンスの視点から—
- 8.25 准教授 溝上 慎一 The 5th International Conference on the Dialogical Self に参加及び
研究発表のためイギリスへ海外出張 (8.31 帰国)
9. 8 教授 松下 佳代 ISCAR 2008 年学会における研究発表及び資料収集のためアメリカ
へ海外出張 (9.15 帰国)
- 9.10 高等教育研究開発推進センター運営委員会 (平成 20 年度第 4 回)
- 9.15 教授 赤松 紀彦 中国語 CALL 教材コンテンツの収集のため中国へ海外出張 (9.24
帰国)

- 9.22 高等教育研究開発推進センター協議員会（平成20年度第2回）
10. 3 平成20年度科学研究費補助金・若手研究（スタートアップ）新規
「韓国における才能教育に関する研究—高校早期卒業および大学早期入学制度を中心に—」
研究代表者：石川 裕之 高等教育研究開発推進センター助教
10. 7 准教授 日置 尋久 国際会議 MMSP 2008 への参加及び研究発表のためオーストラリアへ海外出張（10.11 帰国）
- 10.10 教授 小山田耕二 ICSC 学会参加及び可視化技術に関する情報収集のため中国へ海外出張（10.12 帰国）
- 10.11 教授 松下 佳代 FD 実践研究における調査及び情報収集、ISSOTL 2008 Conference 参加及び研究発表のためカナダへ海外出張（10.20 帰国）
准教授 及川 恵 同上
助教 石川 裕之 同上
- 10.15 准教授 酒井 博之 ISSOTL 2008 Conference 参加及び研究発表のためカナダへ海外出張（10.20 帰国）
- 10.15 高等教育研究開発推進センター運営委員会（平成20年度第5回）
- 10.17 助教 宮崎 康子 韓国教育哲学会 2008 年国際学術大会参加及び資料収集のため大韓民国へ海外出張（10.20 帰国）
- 10.18 助教 坂本 尚久 IEEE VisWeek 2008 に参加、デモンストレーション、可視化技術に関する情報収集のためアメリカへ海外出張（10.26 帰国）
- 10.23 教授 小山田耕二 PRAGMA15 に参加及び可視化技術に関する情報収集のためマレーシアへ海外出張（10.25 帰国）
- 11.13 教授 小山田耕二 SC08 国際会議参加、当研究室技術紹介、システムデモンストレーション、可視化技術に関する情報収集、第5回流動ダイナミクスに関する国際会議にて講演のためアメリカへ海外出張（11.19 帰国）
- 11.15 第79回公開研究会
平成19年度科学研究費補助金（基盤研究（C））溝上慎一代表「単位制度の実質化を目指すカリキュラム評価方法の開発」の中間成果報告
報告者：溝上 慎一 京都大学高等教育研究開発推進センター准教授
清水 一彦 筑波大学大学院人間総合科学研究科長
長谷部秀孝 創価大学経済学部長
土持ゲーリー法一 弘前大学21世紀教育センター高等教育研究開発室教授
矢部 正之 信州大学全学教育機構機構長
テーマ：学生の成長を促す日本版・単位制度の実質化
コメンテーター：清水 一彦 筑波大学大学院人間総合科学研究科長
申本 剛 首都大学東京基礎教育センター助教

11.15	助教 坂本 尚久 SC08 国際会議参加、デモンストレーション、可視化技術に関する情報収集のためアメリカへ海外出張 (11.23 帰国)
11.19	助教 宮崎 康子 David Hansen 教授との研究打合せ、Rene Arcilla 准教授との研究打合せ、コロキウム (Jonas 名誉教授講演会) 出席及び資料収集のためアメリカへ海外出張 (11.25 帰国)
11.20	文学部 FD 講演会 講演：田中 每実 高等教育研究開発推進センター教授／FD 研究検討委員会委員長
11.25	農学部・農学研究科 FD ワークショップ 講演：大塚 雄作 高等教育研究開発推進センター教授／FD 研究検討委員会委員
11.26	2008 年度第 3 回 公開授業・検討会 主催：京都大学 FD 研究検討委員会 講義：辻本 雅史 教育学研究科教授「教育史概論 I」教育学部専門科目
11.30	助教 坂本 尚久 ISVC08 国際会議参加、粒子ベースポリュウムレンダリング技術に関する研究発表及び情報収集のためアメリカへ海外出張 (12.5 帰国)
12. 2	教授 大塚 雄作 北京師範大学にて集中講義「高等教育論—日本の大学教育の課題と評価—」、北京師範大学主催国際シンポジウム「現代日本の高等教育」参加 (指定討論担当) のため中国へ海外出張 (12.6 帰国)
12.10	第 4 回工学部教育シンポジウム 主催：京都大学工学部・高等教育研究開発推進センター 開会挨拶 大瀧幸一郎 工学部長 文部科学省科学技術人材養成委託事業 理数学生応援プロジェクト「グローバルリーダーシップ工学教育プログラム」報告 西本 清一 総括委員長 調査報告 工学部授業アンケートの結果と分析 (平成 19 年度後期分・平成 20 年度前期分) 大塚 雄作 高等教育研究開発推進センター教授 教育改善に向けて 私の授業—アンケート結果を受けて— 川崎 雅史 工学部地球工学科教授 上谷 宏二 工学部建築学科教授 木村 健二 工学部物理工学科教授 川上 養一 工学部電気電子工学科教授 船越 満明 工学部情報学科教授 長谷部伸治 工学部工業化学科教授 ディスカッション
2009. 1.20	2008 年度第 4 回 公開授業・検討会 主催：京都大学 FD 研究検討委員会 講義：森本 剛 医学研究科講師「診断治療学総論」医学部専門科目

- 1.21 高等教育研究開発推進センター運営委員会（平成 20 年度第 6 回）
- 1.24～25 特別教育研究「大学教員教育研修のためのモデル拠点形成」プロジェクト発足
国際シンポジウム
「日本の FD の未来—Building the Core in Faculty Development—」
司 会 溝上 慎一 京都大学高等教育研究開発推進センター准教授
祝 辞 義本 博司 文部科学省大学振興課長
西村 周三 京都大学理事
開会挨拶 「大学教員教育研修のためのモデル拠点形成」
田中 每実 京都大学高等教育研究開発推進センター教授
基調講演「高等教育における Teaching Commons の構築」
Mary Taylor Huber カーネギー教育振興財団上級研究員
セッション 1 「FD ネットワークの構築」
パネリスト
Jennifer Meta Robinson インディアナ大学上級講師／ISSOTL 会長
小田 隆治 山形大学高等教育研究企画センター教授
松下 佳代 京都大学高等教育研究開発推進センター教授
司会：圓月 勝博 同志社大学文学部教授
情報交換会
セッション 2 「テクノロジー利用による FD」
パネリスト
Frank Prochaska ノースカロライナ大学本部副部長
飯吉 透 マサチューセッツ工科大学教育イノベーション・テクノロジー局シニアストラテジスト
酒井 博之 京都大学高等教育研究開発推進センター准教授
司会：吉田 文 早稲田大学教育学部教授
セッション 3 「FD の推進主体を問う」
パネリスト
Mary Taylor Huber カーネギー教育振興財団上級研究員
佐藤 浩章 愛媛大学教育企画室准教授
大塚 雄作 京都大学高等教育研究開発推進センター教授
司会：夏目 達也 名古屋大学高等教育研究センター教授
総括 各セッションのまとめと討論
セッション 1：圓月 勝博 同志社大学文学部教授
セッション 2：吉田 文 早稲田大学教育学部教授
セッション 3：夏目 達也 名古屋大学高等教育研究センター教授
指 定 討 論：田中 每実 京都大学高等教育研究開発推進センター教授
司 会：溝上 慎一 京都大学高等教育研究開発推進センター准教授
2. 3 准教授 及川 恵 The 10th annual Society of Personality and Social Psychology 参加、
Preconference 参加及び研究発表のためアメリカへ海外出張（2.8 帰国）
- 2.13 助教 石川 裕之 韓国 FD 関連の資料収集のため大韓民国へ海外出張（2.21 帰国）
- 2.18 高等教育研究開発推進センター運営委員会（平成 20 年度第 7 回）

- 3.18 高等教育研究開発推進センター運営委員会 (平成 20 年度第 8 回)
- 3.20 准教授 Stewart Timothy William AAAL 2009 Annual Conference 参加及び 43rd Annual TESOL Convention 参加のためへ海外出張 (3.30 帰国)
- 3.20～21 第 15 回大学教育研究フォーラム
(特別教育研究「大学教員教育研修のためのモデル拠点形成」の一環)
特別講演／シンポジウム
- 司 会 大塚 雄作 京都大学高等教育研究開発推進センター教授
及川 恵 京都大学高等教育研究開発推進センター准教授
開会の挨拶 西村 周三 京都大学理事 教育・学生・国際 (教育) 担当
特別講演 「21 世紀の FD モデルの構築に向けて
—オープンエデュケーション、Scholarship of Teaching and Learning と
テクノロジーの活用を中心に—
飯吉 透 マサチューセッツ工科大学教育イノベーション・テクノロジー局上級ストラテジスト
- シンポジウム 「FD の学内組織化と大学間連携」
- 報告者 1 今泉 柔剛 文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室長
報告者 2 小田 隆治 山形大学地域教育文化学部教授／高等教育研究企画センター
報告者 3 松下 佳代 京都大学高等教育研究開発推進センター教授
報告者 4 山田 剛史 島根大学教育開発センター専任講師／副センター長
全体討論
- 小講演
- (1) FD の効果をどう測定するか?—真正の FD を推進するために—
佐藤 浩章 愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室准教授／副室長
司会：田中 每実 京都大学高等教育研究開発推進センター教授
- (2) 考えて書く力を学びあう
鈴木 宏昭 青山学院大学文学部教授
司会：松下 佳代 京都大学高等教育研究開発推進センター教授
- (3) 大学評価のネクストステップ—大学評価文化の定着をめざして—
川口 昭彦 独立行政法人大学評価・学位授与機構理事
司会：大塚 雄作 京都大学高等教育研究開発推進センター教授
- (4) 学士課程における ESP (特定目的の英語) 教育の可能性について
山内ひさ子 長崎県立大学国際情報学部教授
司会：田地野 彰 京都大学高等教育研究開発推進センター教授
- (5) 大学のキャリア支援を職員の立場から考える
近藤 浩 帝塚山大学学生支援センター・キャリアセンター課長補佐
司会：溝上 慎一 京都大学高等教育研究開発推進センター准教授
- (6) ICT を活用した FD—オンライン上に相互研修の場をどう構築するか—
酒井 博之 京都大学高等教育研究開発推進センター准教授
司会：小山田耕二 京都大学高等教育研究開発推進センター教授
- (7) 学生のこころの育ちの現状とこれからの学生支援
高石 恭子 甲南大学文学部教授／学生相談室専任カウンセラー

司会：及川 恵 京都大学高等教育研究開発推進センター准教授
(8)動く職員組織をつくるー職員は大学の「財産」ー
里見 朋香 京都大学教育推進部長
司会：田中 每実 京都大学高等教育研究開発推進センター教授

ラウンドテーブル企画（8件）

個人発表

- | | |
|------------------------|------------------|
| (1)教育評価研究部会 | (2)カリキュラム研究部会 |
| (3)授業研究部会 | (4)FD・授業公開研究部会 |
| (5)e-Learning・遠隔教育研究部会 | (6)大学生・大学生生活研究部会 |

参加人数 529名

- 3.23 助教 坂本 尚久 Pragma16 国際ワークショップに参加及び可視化技術に関する情報
収集のため大韓民国へ海外出張（3.26 帰国）

高等教育研究開発推進センター組織

（2008 年 4 月 1 日～2009 年 3 月 31 日）

高等教育研究開発推進センター協議員：

田中 毎実	センター長	大塚 雄作	センター教授
松下 佳代	センター教授	小田 伸午	センター教授
吉田 純	センター教授	田地野 彰	センター教授
山本 行男	センター教授	小山田耕二	センター教授
赤松 紀彦	センター教授（8 月～）		
北村 隆行	高等教育研究開発推進機構長		
北村 雅夫	高等教育研究開発推進機構副機構長		
高橋 由典	高等教育研究開発推進機構副機構長		
堀 智孝	大学院人間・環境学研究科長		
加藤 重樹	大学院理学研究科長		
小林 道夫	大学院文学研究科教授		
矢野 智司	大学院教育学研究科教授・同研究科長		
山本 豊	大学院法学研究科教授		
田中 秀夫	大学院経済学研究科教授		
平出 敦	大学院医学研究科教授		
伊藤 信行	大学院薬学研究科教授		
大瀧幸一郎	大学院工学研究科教授・同研究科長		
平田 孝	大学院農学研究科教授		
富田 眞治	大学院情報学研究科教授・同研究科長		
美濃 導彦	学術情報メディアセンター長		

高等教育研究開発推進センター運営委員：

田中 毎実	センター長	大塚 雄作	センター教授
松下 佳代	センター教授	小田 伸午	センター教授
吉田 純	センター教授	田地野 彰	センター教授
山本 行男	センター教授	小山田耕二	センター教授
赤松 紀彦	センター教授（8 月～）	溝上 慎一	センター准教授
田口 真奈	センター准教授	田中 真介	センター准教授
酒井 博之	センター准教授	Dalsky David Jerome	センター准教授
桂山 康司	センター准教授（8 月～）	日置 尋久	センター准教授
Stewart Timothy William	センター准教授	及川 恵	センター助教（10 月より准教授）
河崎 美保	センター助教	宮崎 康子	センター助教（8 月～）
石川 裕之	センター助教	坂本 尚久	センター助教
酒井 晃二	センター助教		

平成 20 年度学外研究協力者：

米谷 淳	神戸大学大学教育推進機構教授
山内 乾史	神戸大学大学教育推進機構准教授
吉田 雅章	和歌山大学経済学部准教授
神藤 貴昭	立命館大学経済学部准教授
吉田 文	早稲田大学教育学部教授

中原 淳	東京大学大学総合教育研究センター准教授
矢野 裕俊	大阪市立大学大学教育研究センター教授
荒木 光彦	松江工業高等専門学校校長
井下 理	慶應義塾大学総合政策学部教授
藤田 哲也	法政大学文学部准教授
山田 礼子	同志社大学社会学部教授
村上 正行	京都外国語大学マルチメディア教育研究センター准教授
鈴木真理子	滋賀大学教育学部教授
杉原 真晃	山形大学高等教育研究企画センター講師
山田 剛史	島根大学教育開発センター講師
小田 隆治	山形大学高等教育研究企画センター教授
絹川 正吉	元（国際基督教大学）前学長
夏目 達也	名古屋大学高等教育研究センター教授
本郷優紀子	桜美林大学・総合研究機構事務局長
尾澤 重知	大分大学高等教育開発センター准教授
圓月 勝博	同志社大学文学部教授
沖 裕貴	立命館大学大学教育開発・支援センター教授
林 創	岡山大学教育学部講師
栗田佳代子	大学評価・学位授与機構評価研究部助教

平成 20 年度学内研究担当教員：

子安 増生	大学院教育学研究科教授
田中 耕治	大学院教育学研究科教授
高見 茂	大学院教育学研究科教授
杉本 均	大学院教育学研究科教授
楠見 孝	大学院教育学研究科教授
大山 泰宏	大学院教育学研究科准教授
土井 真一	大学院法学研究科教授
八木紀一郎	大学院経済学研究科教授
平出 敦	大学院医学研究科教授
平田 孝	大学院農学研究科教授
藤井 信孝	大学院薬学研究科教授
大寫幸一郎	大学院工学研究科教授
湯淺 太一	大学院情報学研究科教授
山本 裕	大学院情報学研究科教授
富谷 至	人文科学研究所教授
美濃 導彦	学術情報メディアセンター教授
喜多 一	学術情報メディアセンター教授
角所 考	学術情報メディアセンター准教授
江原 康生	学術情報メディアセンター助教（～9 月）

平成 20 年度企画協力教員

大木 充	大学院人間・環境学研究科教授
丸橋 良雄	大学院人間・環境学研究科教授
酒井 敏	大学院人間・環境学研究科准教授
西山 教行	大学院人間・環境学研究科准教授
壇辻 正剛	学術情報メディアセンター教授

高等教育研究開発推進センター教員業績

（2008 年 4 月 1 日～2009 年 3 月 31 日）

※職名は 2008 年度現在

第一部門（高等教育教授システム研究開発部門）

田中 每実（教授）

1. 研究業績

【著作】

- ・田中每実「研究大学における FD と FD 地域連携：京都大学の場合」（東北大学高等教育開発推進センター編『研究・教育のシナジーと FD の将来』70-82 頁）東北大学出版会 2008.3

【論文】

- ・田中每実「相互研修型 FD」組織化の可能性」（『京都大学高等教育叢書 26—平成 16 年度採択特色 GP 報告書』1-20 頁）2008.2
- ・田中每実「戦後教育学の出発」に関する総括的報告」（教育哲学会『教育哲学研究』第 97 号 173-175 頁）2008.5

【その他の著作物】

- ・田中每実「Book Review：荒木光彦監修『技術者の姿—技術立国を支える高専卒業者たち』」（民主教育協会雑誌『IDE 日本の高等教育』69-70 頁）2008.7
- ・田中每実「相互研修型 FD と拠点形成」（民主教育協会雑誌『IDE 日本の高等教育』54-57 頁）2008.8
- ・田中每実「相互研修型 FD の組織化をめぐる：第 14 回大学教育研究フォーラム基調報告（京都大学高等教育研究開発推進センター紀要『高等教育研究』第 14 号）2008.12

【学会発表など】

- ・田中每実 2008.8 「臨床的人間形成論の系譜」 国際教育哲学会 京都大学
- ・田中每実 2008.10 「教育哲学の教育現実構给力について」（課題研究「教育研究のなかの教育哲学—その位置とアイデンティティを問う」）教育哲学会第 51 回大会 慶應義塾大学
- ・田中每実 2008.12 大学教育学会課題研究集会 企画委員長 岡山大学

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育：「ライフサイクルと教育 B」（後期分担）
- ③大学院教育：「高等教育論演習 I A・B」（教育学研究科、前・後期）、「高等教育開発論研究 A・B」（教育学研究科、前・後期、共同）

3. その他の活動

【学内委員】

- ・高等教育研究開発推進センター センター長
- ・京都大学教育研究評議会 評議員
- ・京都大学 FD 研究検討委員会 委員長

【社会活動】

- ・関西地区 FD 連絡協議会代表幹事校・代表

- ・教育哲学会常任理事・機関誌編集委員長
- ・教育思想史学会理事
- ・大学教育学会常任理事
- ・日本学術会議連携会員
- ・文部科学省中央教育審議会大学分科会専門委員
- ・国立教育政策研究所客員研究員
- ・山梨学院大学附属小学校客員研究員
- ・大阪大学大学教育実践センター外部評価委員

【講演】

- ・田中毎実 2008.2 「FD と授業改善—公開授業などについて」 明治学院大学
- ・田中毎実 2008.3 指定討論 京都コンソ FD フォーラム「FD 組織化への挑戦と課題」 立命館大学衣笠キャンパス
- ・田中毎実 2008.8 基調講演「FD と大学等の地域連携」 平成 20 年度大学コンソーシアム石川 FD 研修会 石川県広坂庁舎 1 号館
- ・田中毎実 2008.11 基調講演「FD の基本的な考え方と今後のあり方」 平成 20 年度看護学教育ワークショップ かずさアカデミアホール (木更津市)
- ・田中毎実 2008.10 「学士課程教育改革への提言」 平成 20 年度愛媛大学 FD・SD セミナー 愛媛大学

大塚 雄作 (教授)

1. 研究業績

【論文】

- ・大塚雄作 2008 関西地区大学の FD——実態とニーズ IDE-現代の高等教育、No. 503 『進展する大学の FD』、27-31 頁
- ・大塚雄作 2009 授業アンケート結果報告：2007 後期-2008 前期 京都大学高等教育叢書 27 大学教員教育研修のためのモデル拠点形成 2008、26-48 頁

【学会発表】

- ・大塚雄作 2008.6.7. 実質的 FD を促進する評価のあり方と課題 大学教育学会第 30 回大会 (目白大学)
- ・大塚雄作 2008.10.11 文系学生に対する心理統計教育の実践 2 ワークショップ指定討論 日本教育心理学会第 50 回総会
- ・林創・大塚雄作 2008 関西地区の大学教育における授業評価の現状 日本教育心理学会第 50 回総会
- ・大塚雄作 2008.12.6 FD のダイナミックス——FD モデル構築へむけた今後の課題 大学教育学会課題研究集会 シンポジウム司会 岡山大学

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育：『教育評価の基礎』(後期)、『ライフサイクルと教育 A』(前期；松下佳代・井下理・大塚雄作)
- ②学部教育：『教育心理尺度開発演習』(前期)
- ③大学院教育：『高等教育開発論研究 A』(前期)、『高等教育論演習 II A』(前期)、『高等教育開発論研究 B』(後期)、『高等教育論演習 II B』(後期)

【学外】

- ・桜美林大学大学院国際学研究科大学アドミニストレーション専攻 (修士課程) 通信教育課程非常勤講師『高等教育研究調査法』
- ・東京大学教育学研究科『教育評価の諸問題——個と全体をいかに繋ぐか』(7/23~28)
- ・早稲田大学教職大学院『学力調査・評価の方法と活用』(8/25~27)

3. その他の活動

【学内委員】

- ・ 高等教育研究開発推進センター第1部門 部門長
- ・ 高等教育研究開発推進機構執行協議会 協議員
- ・ 大学評価小委員会 委員

【社会活動】

- ・ 日本教育心理学会常任編集委員
- ・ 日本テスト学会監事（2008年8月まで）
- ・ 独立行政法人大学評価・学位授与機構評価研究部 調査研究協力者
- ・ 独立行政法人大学評価・学位授与機構 学位審査会専門委員
- ・ 独立行政法人大学評価・学位授与機構 短期大学機関別認証評価委員会委員
- ・ 独立行政法人大学評価・学位授与機構 大学機関別認証評価委員会委員
- ・ 特定非営利活動法人実務能力認定機構理事
- ・ 財団法人大学コンソーシアム京都 FD フォーラム企画検討委員会委員
- ・ 最高裁判所 家庭裁判所調査官試験委員会臨時委員
- ・ ISO/TC232（人材育成と非公式教育サービス）国内審議委員会委員
- ・ 電通育英会奨学生選考委員

【講演など】

- ・ 大塚雄作 2008.6.19 FD義務化時代を切り拓く「共に創るFD」への挑戦 New Education Expo 2008 in Osaka
- ・ 大塚雄作 2008.7.8 授業「改善」と「組織的」FDのあり方——FD義務条項をどう捉えるか IPU 環太平洋大学
- ・ 大塚雄作 2008.8.5 ミニ講義1 大学授業の現在 京都大学大学院生のための教育実践講座 2008～大学でどう教えるか～
- ・ 大塚雄作 2008.9.1 FD義務化と授業改善——FD共同体の形成に向けて—— 明治薬科大学
- ・ 大塚雄作 2008.9.17 FDの具体的活動と教育評価について 藍野大学
- ・ 大塚雄作 2008.10.20 大学院のFDと評価——新たな学問共同体の形成に向けて—— 同志社大学総合政策科学研究科
- ・ 大塚雄作 2008.10.30 共に創るFDへの挑戦——学問学習共同体の形成に向けて—— 奈良教育大学
- ・ 大塚雄作 2008.11.5 授業評価から授業改善へ——FD共同体の形成に向けて—— 京都府立大学
- ・ 大塚雄作 2008.11.7 FDの義務化と大学間ネットワーク（Mandatory FD in Higher Education and Inter-University Network in Japan）NIME 国際シンポジウム 2008『高等教育における効果的 eラーニング実施のための長期的戦略ビジョン Long-Term Strategic Visions of e-Learning Implementations in Higher Education』日本科学未来館みらいCAN ホール
- ・ 大塚雄作 2008.11.25 対話を根幹とする自学自習の創出——新たな学問共同体の形成に向けて—— 京都大学農学部
- ・ 大塚雄作 2008.12.10 授業アンケート結果報告——2007 後期-2008 前期 第4回工学部教育シンポジウム 京都大学工学部
- ・ 大塚雄作 2008.12.11 授業評価の解釈と活用——FD共同体の形成に向けて—— 大阪歯科大学
- ・ 大塚雄作 2009.1.21 授業評価に基づく授業改善——FD共同体の形成に向けて—— 滋賀医科大学
- ・ 大塚雄作 2009.1.25 FD推進主体を問う（Who Promotes Faculty Development?）日本のFDの未来——Building the Core in Faculty Development—— 京都大学
- ・ 大塚雄作 2009.1.28 共に創るFDの発想と評価——新たな学問学習共同体の形成に向けて—— 兵庫教育大学
- ・ 大塚雄作 2009.2.4 共に創る授業改善への発想——学びの共同体の形成に向けて—— 三重県立看護大学
- ・ 大塚雄作 2009.2.7 共に創るFDの発想と評価——新たな学問学習共同体の形成に向けて—— 6年制薬学教育広域総合連携

- ・大塚雄作 2009.2.27 共に創る FD の発想と評価——新たな学問学習共同体の形成に向けて—— 四国学院大学
- ・大塚雄作 2009.3.1 未来を担うプレ FD の創造——大学院生大学教員準備研修のあり方と課題 プレ FD 分科会・コーディネーター 第 14 回 FD フォーラム (龍谷大学)
- ・大塚雄作 2009.3.12 学士課程教育における質保証と FD セミナー『高等教育機関の実務教育育成』 ACPA & 早稲田大学人間科学学術院共催
- ・大塚雄作 2009.3.19 授業評価から FD 評価へ 第 2 回関西地区 FD 連絡協議会主催イベント「公開研究会」司会 京都大学
- ・大塚雄作 2009.3.20 第 15 回大学教育研究フォーラムシンポジウム「FD の学内組織化と大学間連携」司会 京都大学

松下 佳代 (教授)

1. 研究業績

【著書】

(執筆分担)

- ・松下佳代 2008.6 「声とリテラシー—PISA 型学力をこえて—」 寺岸和光著、松下良平・松下佳代解説 『「かわりの力」で学級が変わる—対話する学びが育てるもの—』 三学出版、177-184 頁

【論文】

- ・松下佳代 2009.3 「FD ネットワーク形成の理念と方法—SPECC プログラムを中心に—」 『京都大学高等教育叢書 27 大学教員教育研修のためのモデル拠点形成 2008』 304-316 頁
- ・Matsushita, K. & Hirayama, T. 2009.3 Between school and work: Emergence of dual responsibility in the student's clinical practice of physical therapy. K. Matsushita (Ed.) *Community, transition and self-construction* [平成 18 年度～平成 20 年度科学研究費補助金 (基盤研究 (B)) 課題番号 18330166] 「学習共同体の生成と個の学び—移動と固有有名性に焦点をあてて—」 研究成果報告書 (1)] pp. 7-19.

【その他の著作物】

(報告書)

- ・松下佳代 2009.1 「多層的な FD ネットワークの構築」 『国際シンポジウム「日本の FD の未来」 発表資料集』 74-82 頁 (Matsushita, K. 2009.1 Building multi-leveled networks of faculty development. *International Symposium "The Future of Faculty Development in Japan" Proceedings*, pp. 70-73)
- ・松下佳代 2009.3 「アメリカ訪問について—SOTL の理論と実践—」 『京都大学高等教育叢書 27 大学教員教育研修のためのモデル拠点形成 2008』 295-299 頁
- ・松下佳代 2009.3 「FD のコンテクストとインパクトのレベル—ISSOTL2008: International Panel "A Faculty Development Framework: Identifying Contexts and Levels of Impact" 報告—」 『京都大学高等教育叢書 27 大学教員教育研修のためのモデル拠点形成 2008』 354-360 頁
- ・Matsushita, K. 2009.3 Introduction: Community, transition and self-construction. K. Matsushita (Ed.) *Community, transition and self-construction*, pp. 5-6.

(その他)

- ・松下佳代 2008.10 「大学カリキュラムのなかのキャリア教育—能力論的検討—」 『IKUEI NEWS』 (電通育英会) 第 44 巻、25 頁

【学会発表】

- ・松下佳代 2008.6 「FD ネットワーク形成の 4 つのレベル」 (ラウンドテーブル「FD ネットワークの可能性をさぐる」) 大学教育学会第 30 回大会 目白大学
- ・松下佳代 2008.8 「大学カリキュラムのなかのキャリア教育—能力論的検討—」 大学生研究フォーラム 2008 (京都大学高等教育研究開発推進センター・電通育英会主催) 京都大学
- ・松下佳代 2008.8 「関西発教育改革—地域に根ざした教育改革を求めて—」 指定討論 (公開シンポジウムⅡ)

日本教育学会第 67 回大会 佛教大学

- ・ Matsushita, K. & Hirayama, T. 2008.9 Between school and work: Emergence of double responsibility in the student's clinical practices of physical therapy. The 2nd International Society for Cultural and Activity Research Congress, UCSD, USA.
- ・ Matsushita, K. 2008.10 Building faculty development network in Japan. (International Panel "A Faculty Development Framework: Identifying Contexts and Levels of Impact"). International Society for the Scholarship of Teaching and Learning 2008 Conference, Edmonton, Canada.
- ・ 松下佳代 2008.12 「主体的な学びの原点」 (開催校企画特別シンポジウム「学生の主体的な学びを広げるために」) 大学教育学会 2008 年度課題研究集会 岡山大学
- ・ 平山朋子・松下佳代 2009.3 「理学療法教育における自生的 FD 実践—OSCE リフレクション法をスタートにして—」 第 15 回大学教育研究フォーラム 京都大学
- ・ 松下佳代 2009.3 「学内・大学間での FD ネットワーク構築—京大センターの試み—」 (シンポジウム「FD の学内組織化と大学間連携」) 第 15 回大学教育研究フォーラム 京都大学

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育:「ライフサイクルと教育 A」(前期)、「学力・学校・社会」(後期)
- ③大学院教育:「高等教育開発論研究 A・B」(教育学研究科、前・後期)、「高等教育論演習 III A・B」(教育学研究科、前・後期)

3. その他の活動

【学内委員】

- ・点検・評価実行委員会委員
- ・女性研究者支援センター 地域連携事業ワーキンググループ推進員
- ・FD 研究検討委員会 WG2 メンバー

【社会活動】

- ・日本教育方法学会理事
- ・日本カリキュラム学会理事、学会誌編集委員
- ・教育目標・評価学会理事
- ・大学教育学会理事、学会誌編集委員
- ・大学コンソーシアム京都 京都高等教育研究センター研究員
- ・学校図書算数教科書著作者
- ・2008 年度「質の高い大学教育推進プログラム」審査委員
- ・2008 年度科学研究費補助金審査委員

【講演】

(FD 関係)

- ・松下佳代 2008.4 「何のための FD?—FD 義務化の時代に一」 獨協大学英語学会主催 FD
- ・松下佳代 2008.7 「大学教員と FD」 大谷大学 FD 研修会
- ・松下佳代 2008.7 「多層的な FD ネットワーク形成」 京都高等教育研究センター 2008 年度第 1 回 FD セミナー
- ・松下佳代 2008.9 「FD のこれまでとこれから—FD 義務化の時代に一」 京滋私立短期大学協会
- ・松下佳代 2009.1 「多層的な FD ネットワークの構築」 国際シンポジウム「日本の FD の未来」 京都大学
- ・松下佳代 2009.2 「大学における『学びの転換』とは」 特色 GP 東北大学総括シンポジウム「大学教育における『学びの転換』と学士課程教育の将来」 東北大学
- ・松下佳代 2009.3 「学士力」はどういう能力概念か?—氾濫する〇〇力— 大学セミナーハウス第 50 回大学教

員セミナー「徹底討論・学士力を考える」 八王子大学セミナーハウス

- ・松下佳代 2009.3 「京都大学 大学院生のための教育実践講座—4年間の成果と今後の展望—」(第3分科会「未来を担うプレFDの創造」) 第14回FDフォーラム 龍谷大学

【その他】

- ・松下佳代 2008.6 「パフォーマンス評価(PA)—子どもの思考と表現を評価する—」 酒田市教育研究所
- ・松下佳代 2008.6 「PISA リテラシーの意味」 宇都宮大学教育学部附属中学校
- ・松下佳代 2009.3 「教師の協働とパフォーマンス評価—エンゲストローム理論との関連—」 お茶の水女子大学附属小学校

溝上 慎一(准教授)

1. 研究業績

【著書】

- ・溝上慎一 2008.10 「自己形成の心理学—他者の森をかけ抜けて自己になる—」 世界思想社

【その他の著作物】

- ・溝上慎一 2008.8 「調査にあたって／調査結果のまとめ」 京都大学高等教育研究開発推進センター・電通育英会(編『大学生のキャリア意識調査2007調査報告書』)、1-4頁、6-16頁
- ・溝上慎一 2008.12 「青年期における同一化形成と関係性」(財)大学コンソーシアム京都 プラザカレッジ21世紀学講座『絆—喪失から再生、そして新生へ—』、京都アカデミア叢書4、85-109頁

【学会発表】

- ・Mizokami, S. 2008.8 「The double formation process in adolescent identity formation in decentralized dynamics」 Paper presented at the Fifth International Conference on the Dialogical Self Book of Abstracts, 107-108頁、UK: The University of Cambridge
- ・溝上慎一 2008.10 「指定討論」安永悟企画自主シンポジウム「大学教育におけるグループ学習の理論的・実践的検討」、日本教育心理学会第50回総会発表論文集、S100-101、東京学芸大学)
- ・溝上慎一 2008.11 「セミナー講師」「対話的自己論—ジェームズ以来の自己論の限界を超えて現代青年期を理解する—」、日本青年心理学会第16回大会発表論文集、横浜国立大学
- ・溝上慎一 2008.11 「シンポジウム企画・発表」「学習タイプ(授業・授業外学習)による知識・技能の獲得差違の検討」、京都大学高等教育研究開発推進センター第79回公開研究会「学生の成長を促す日本版・単位制度の実質化」、京都大学
- ・溝上慎一 2009.3 「大学生生活の過ごし方から見た学生タイプの特徴—どの活動次元でも High Performer が高い学習成果を示す—」第15回大学教育研究フォーラム発表論文集、70-71頁、京都大学

2. 教育活動

【学内】

①全学共通教育

「現代の大学・大学生論」「自己形成の心理学」

② KUINEP

「University and University Students in Today's Japan」「Self-formation in Adolescence」

③大学院教育

教育学研究科「高等教育開発論研究A」「高等教育開発論研究B」

【学外】

- ・大手前大学社会文化学部非常勤講師「心理学研究法I」「心理学研究法II」
- ・大手前大学人文科学部非常勤講師「認知心理学」「人格心理学」

3. その他の活動

【学内委員】

- ・教育学研究科・学生委員

【社会活動】

- ・大学教育学会理事
- ・日本青年心理学会理事
- ・International Conference on the Dialogical Self、Scientific Committee 委員
- ・日本青年心理学会『青年心理学研究』編集委員
- ・比治山大学高等教育研究所客員研究員
- ・電通有英会大学生調査プロジェクトアドバイザー
- ・ANA 総合研究所「ホスピタリティ産業を支える人材育成における産学連携プログラムに関する委員会委員」「ワーキンググループリーダー」

【講演など】

- ・創価大学教育・学習活動支援センター主催講演会講師 2008.6 「どのような学習タイプが学生の成長に寄与するか—法制度遵守ではない単位制度の実質化を求めて—」
- ・代々木ゼミナール・関東版京大入試研究会講師 2008.6 「京都大学の魅力再発見」
- ・筑波大学平成20年度人間総合科学研究科第2回FDプログラム・ワークショップ講師 2008.7 「大学で何を学ぶのか—現代の大学生の心理と効果的な授業実践—」
- ・ANA 総合研究所研修講師 2008.9 「現代大学生の人生形成と学び——大学はこれにどう応えようとしているか」
- ・私学次世代教育研究会講演 2008.10 「社会との接続をにらんだ学校教育の使命—にらみすぎではできない学生の学び—」
- ・千葉大学普遍教育センター主催第2回普遍教育シンポジウム・テーマセッション講演 2008.11 「京都大学における「新入生向け少人数セミナー（通称ポケットゼミ）」の紹介と今後の課題」
- ・学研進路指導研究会講演 2008.11 「学校教育を通して学生の何を育てているのか—学校教育と社会・産業界との接続—」
- ・愛媛県立医療技術大学心理学特別講演 2008.12 「大学で学ぶことの意味とキャリア形成」
- ・愛媛県立医療技術大学FD研修会講師 2008.12 「相互研修型を捨てないFDを求めて」
- ・愛知医科大学看護学部FD講演 2008.12 「大学ならびに大学院教育におけるFD活動と大学院生に対する教育方法についての考え方について」
- ・長野県看護大学「成人看護学」特別講義 2009.1 「自己形成の現象を理論的に理解する」
- ・徳島大学教育カンファレンス基調講演 2009.1 「どの活動次元でもHigh Performerな学生が高い学習成果を示す」
- ・札幌医科大学保健医療学部FD講演 2009.2 「多様化する学生の質と教育改善—アイデンティティ形成とScholarship of Teaching and Learning」
- ・熊本県立熊本高等学校講演 2009.3 「大学で学ぶということ」
- ・ホスピタリティツーリズム専門学校大阪講演 2009.3 「生徒の考えをまとめ、思考を促すファシリテーター—黒板の使い方—」

田口 真奈（准教授）

1. 研究業績

【論文】

- ・田口真奈（2008）FDの推進主体は誰か、『IDE 現代の高等教育』、No. 503, 21-26

【学会発表】

- ・大山牧子・村上正行・田口真奈・松下佳代（2008）「e-Learning 語学教材を用いた学習行為の分析—学習スタイルに着目して—」日本教育工学会第24回全国大会講演論文集 793-794 頁。

2. 教育活動

【学内】

- ③大学院教育：「高等教育開発論研究 A」（教育学研究科、前期・共同）「高等教育文献講読演習 A」（教育学研究科、前期）

3. その他の活動

【学内委員】

- ・京都大学教育学研究科・教務委員

酒井 博之（特定准教授）

1. 研究業績

【論文】

- ・酒井博之、山田剛史、杉原真晃 2008.12 「オンライン公開授業実践における大学教員の「気づき」と「自省」」『日本教育工学会論文誌』32 卷 (Suppl.)、57-60 頁。

【その他の著作物】

- ・田中毎実、酒井博之 2009.3 「III. 地域連携—関西地区 FD 連絡協議会の設立と初年度の活動成果— 1. 設立総会」「III-2. 組織と実施体制」「III-3. 幹事校会議」京都大学高等教育叢書 27（平成 20 年度採択特別教育研究経費報告書「大学教員教育研修のためのモデル拠点形成 2008」）
- ・酒井博之 2009.3 「III. 地域連携—関西地区 FD 連絡協議会の設立と初年度の活動成果— 4-4. 広報ワーキンググループ」「III-5. 主催・共催・協賛イベント一覧」「IV-1. 大学教育ネットワーク」「V-A. アメリカ訪問 4. テクノロジー活用による FD ネットワーク形成」「V-B. カナダ訪問 3. ISSoTL におけるポスターセッションの報告 (Web-based Class Observation Practice for Mutual Training of University Teachers)」京都大学高等教育叢書 27（平成 20 年度採択特別教育研究経費報告書「大学教員教育研修のためのモデル拠点形成 2008」）

【学会発表】

- ・酒井博之 2008.10 「Web を利用した公開授業システムの実用化に向けて (2)」日本教育工学会第 24 回全国大会講演論文集、169-170、上越教育大学
- ・Sakai, H. 2008.10 Web-based class observation practice for mutual training of university teachers, the 2008 International Society for the Scholarship of Teaching and Learning Conference (Edmonton, Canada, Oct. 18, 2008)
- ・上田真由美、酒井博之、中村麗子、美濃導彦 2009.3 「京都大学における Sakai—講義での Sakai 活用、QA、および KEEP の日本語化—」第 2 回 Ja Sakai カンファレンス、名古屋大学

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育：「ライフサイクルと教育 B」（後期・共同）
- ③大学院教育：「高等教育開発論研究 A・B」（前・後期・共同）

【学外】

- ・京都コンピュータ学院非常勤講師「MIDI 入門 1・2」

3. その他の活動

【学内委員】

- ・高等教育研究開発推進センター情報セキュリティ委員
- ・情報環境機構 KUINS 利用負担金検討委員会委員
- ・吉田キャンパス整備専門委員会委員

【社会活動】

- ・ 特定非営利活動法人音の文化研究会理事

【その他】

- ・ 酒井博之 2008.12 「Web 公開授業の現状と課題—京都大学を軸とした取組み事例を中心として—（話題提供）」流通科学大学教育高度化推進センター主催・関西地区 FD 連絡協議会協賛、第 2 回特色 GP 採択記念シンポジウム「公開授業の現状と課題」、流通科学大学
- ・ 酒井博之 2009.1 「テクノロジー利用による FD（話題提供）」、特別教育研究「大学教員教育研修のためのモデル拠点形成」プロジェクト発足シンポジウム「日本の FD の未来—Building the Core in Faculty Development—」、京都大学
- ・ 酒井博之 2009.3 「ICT を活用した FD—オンライン上に相互研修の場をどう構築するか—」第 15 回大学教育研究フォーラム小講演、京都大学

及川 恵（特定准教授）

1. 研究業績

【論文】

- ・ 及川恵・坂本真士 2008.12 「大学生の精神的不適応に対する予防的アプローチ—授業の場を活用した抑うつ的一次予防プログラムの改訂と効果の検討—」『京都大学高等教育研究』第 14 号、145-156 頁

【その他の著作物】

- ・ 及川恵 2009.3 「共同実施ワーキンググループ」『京都大学高等教育叢書 27（平成 20 年度採択特別教育研究経費報告書 大学教員教育研修のためのモデル拠点形成 2008）』、190-191 頁
- ・ 及川恵・石川裕之 2009.3 「マギル大学 TLS 訪問および ISSOTL2008 参加」『京都大学高等教育叢書 27（平成 20 年度採択特別教育研究経費報告書 大学教員教育研修のためのモデル拠点形成 2008）』、368-369 頁

【学会発表】

- ・ 及川恵・坂本真士 2008.9 「ストレス対処と对人的対処に関する心理教育の効果—心理教育に関する総合的評価と履修動機に着目した検討—」日本健康心理学会第 21 回大会、桜美林大学
- ・ 及川恵・坂本真士 2008.9 「抑うつ予防を目的とした心理教育プログラムの検討（4）—身体的側面に対する介入を加えたプログラム内容の改訂—」日本心理学会第 72 回大会、北海道大学
- ・ 及川恵 2008.9 「抑うつと認知的対処—予防的介入への示唆」（城月健太郎（企画者）・井澤修平（司会者）・城月健太郎・山本隆一郎・及川恵（話題提供者）「臨床心理学における認知的情報処理の機能」）日本心理学会第 72 回大会、北海道大学
- ・ M. Oikawa and S. Sakamoto. 2009.2 Enhancing self-efficacy for coping with depression among female undergraduates: Mood regulation based on cognitive behavior techniques. Emotion preconference to the Society for Personality and Social Psychology Annual Meeting, Tampa.

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育：「ライフサイクルと教育 B」（後期、分担）
- ③大学院教育：「高等教育開発論研究 B」（教育学研究科、後期、共同）

石川 裕之（特定助教）

1. 研究業績

【著書】

- ・ 石川裕之 2009.3 「韓国における表現教育」浅見均『子どもと表現』日本文教出版、84-87 頁

【論文】

- ・石川裕之 2008.6 「韓国の対外言語政策における韓国語『世界化』戦略と世宗学堂の設立」『比較教育学研究』第37号、57-67頁

【その他の著作物】

- ・石川裕之 2009.3 「韓国：『後発福祉国家』における子育て支援政策—国民国家モデルとグローバル・モデルの錯綜—」深堀聰子（研究代表者）『子育て支援制度の整合性・公共性・平等性に関する国際比較研究』平成19-20年度科学研究費補助金基盤研究（C）最終報告書、105-126頁

【学会発表】

- ・松浦真理・南部広孝・楠山研・石川裕之 2008.6 「『育児の公共化』と『ジェンダー秩序』からみる子育て支援の特徴と課題—中国・台湾・韓国・オランダ—」日本比較教育学会第44回大会、東北大学
- ・村上正行・山田剛史・葛城浩一・石川裕之 2009.3 「FDに関わる若手教員の現在と未来」第15回大学教育研究フォーラム、京都大学

2. 教育活動

【学外】

- ・びわこ成蹊スポーツ大学 非常勤講師
- ・奈良女子大学 非常勤講師

3. その他の活動

【社会活動】

- ・日本比較教育学会 幹事

河崎 美保（助教）

1. 研究業績

【著書】

- ・河崎美保 2008.10 「疑問点を考えながら解法の発表を聴くことの効果」赤井悟（監修）・大阪府寝屋川市立田井小学校研修委員会（編著）『学力を育てる授業研究』三学出版、213-217頁

【その他の著作物】

- ・河崎美保 2009.3 「II-4. 大学院生のための教育実践講座—大学でどう教えるか— 【1】実施報告」『京都大学高等教育叢書 27（平成20年度採択特別教育研究経費報告書 大学教員教育研修のためのモデル拠点形成2008）』、80-107頁
- ・河崎美保 2009.3 「V-A. アメリカ訪問 5. カーネギー教育振興財団、インディアナ大学、およびノースカロライナ大学訪問」『京都大学高等教育叢書 27（平成20年度採択特別教育研究経費報告書 大学教員教育研修のためのモデル拠点形成2008）』、340-342頁

【学会発表】

- ・河崎美保 2008.9 「算数の混み具合比較課題の解法理解に対する2つの解法の説明課題の効果」日本認知科学会第25回大会、同志社大学
- ・河崎美保 2008.10 「複数解法提示による混み具合比較課題の解法理解の促進」日本教育心理学会第50回総会、東京学芸大学
- ・河崎美保 2008.10 「非規範的解法の検討による数学的概念理解の促進」河野麻沙美・河崎美保・佐藤誠子企画自主シンポジウム「あやまりの可能性 プロセスの多様性：算数授業のデザインを考える」日本教育心理学会第50回総会、東京学芸大学

2. 教育活動

【学外】

- ・追手門学院大学非常勤講師「実験心理学演習」
- ・大手前大学非常勤講師「環境心理学」

第二部門（全学共通教育カリキュラム企画開発部門）

吉田 純（教授）

1. 研究業績

【著書】

- ・吉田純 2008.10 「コミュニケーション的合理性——ハーバーマス『コミュニケーション的行為の理論』」井上俊・伊藤公雄（編）『社会学ベーシックス 第1巻 自己・他者・関係』世界思想社、241-250 頁

【その他の著作物】

- ・吉田純 2008.9 「戦友会についてのアンケート調査 2005・集計」、戦友会研究会（編）『戦友会に関する統計調査資料 2008』、3-23 頁

【学会発表】

- ・吉田純 2008.12 「リスク社会における『存在論的安心』の可能性」、平成 20 年度原子力安全基盤調査研究「学習する組織」による安全文化醸成に関する研究プロジェクト「学習する組織による安全文化醸成」ワークショップ（キャンパスプラザ京都）
- ・吉田純 2009.1 「情報ネットワーク社会における〈監視〉と〈プライバシー〉」、システム制御情報学会講習会「あなたのプライバシーは護られていますか?——監視社会におけるプライバシー保護のあり方と最近の工学的取り組み」（立命館大学大阪オフィス 7C セミナールーム）

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育：「社会学基礎論」「経験社会学Ⅰ」「社会学基礎ゼミナール A・B」
- ②学部教育：「社会情報論」「社会情報論演習 A・B」（以上、総合人間学部）、「社会学特殊講義」（文学部）
- ③大学院教育：「共生人間学研究Ⅰ・Ⅱ」「人間・社会行動論 2」「社会行動論演習 2」（以上、人間・環境学研究科、博士前期課程）、「共生人間学特別研究Ⅰ・Ⅱ」「社会行動論特別演習Ⅰ・Ⅱ」（以上、人間・環境学研究科、博士後期課程）、「社会学特殊講義」（文学研究科）

3. その他の活動

【学内委員】

- ・教養教育専門委員会
- ・教養教育専門委員会 A 群科目部会
- ・教養教育専門委員会 B 群科目部会

【社会活動】

- ・日本社会情報学会 理事、会誌編集委員
- ・日本社会学会 データベース委員
- ・関西社会学会 事務局担当理事
- ・近畿地区大学教育研究会 専門委員、企画小委員会委員

小田 伸午 (教授)

1. 研究業績

【著書】

- ・河端隆志、中村泰介、小田伸午 2008.12 『サッカープレー革命2 DVD 長実戦編』カンゼン

【論文】

- ・生田泰志、松田有司、来田宣幸、小田伸午：クロール泳における全力泳中のストローク変数と筋活動の関係、第20回日本バイオメカニクス学会大会論集、p. 76、2008.
- ・Yamada Y, Yokoyama K, Noriyasu R, Osaki T, Adach T, Ito A, Naito Y, Morimoto T, Kimura M and Oda S: Light-intensity activities are important for estimating physical activity energy expenditure using uniaxial and triaxial accelerometers. Eur J Appl Physiol 105: 141-152, 2009.
- ・Yamada Y, Masuo Y, Yokoyama K, Hashii Y, Ando S, Okayama Y, Morimoto T, Kimura M and Oda S: Proximal electrode placement improves the estimation of body composition in obese and lean elderly during segmental bioelectrical impedance analysis. Eur J Appl Physiol. 107: 135-144, 2009.
- ・Ando S, Yamada Y, Tanaka T, Oda S and Kokubu M: Reaction time to peripheral visual stimuli during exercise under normoxia and hyperoxia. Eur J Appl Physiol 106: 61-69, 2009.

【学会発表】

- ・藤井進也、工藤和俊、大築立志、小田伸午、熟練ドラム奏者の最速スティッキング制御 第2回 生理学研究所 Motor Control 研究会、岡崎、愛知、2008.5
- ・M. Shinya, Y. Yamada, H. Tateuchi and S. Oda Time to Lift Leg depends on Initial Weight Distribution 26th International Conference on Biomechanics in Sports 2008. 7, Seoul, Korea
- ・國部雅大、小田伸午 輻輳および開散眼球運動中にみられる両眼の共同性における個人差と再現性 第16回日本運動生理学会大会、2008.7 帝塚山大学
- ・進矢正宏、小田伸午 非対称な刺激提示確率が選択反応課題での前方踏み出し動作に与える影響 第59回日本体育学会 2008.9 早稲田大学
- ・松田有司、赤井聡文、生田泰志、野村照夫、小田伸午、「クロール泳における1ストローク中の速度変動と手のかきのタイミングの関係性」 第20回バイオメカニクス学会 2008.9
- ・生田泰志、松田有司、来田宣幸、小田伸午：クロール泳における全力泳中のストローク変数と筋活動の関係、第20回日本バイオメカニクス学会 2008.9 仙台大学
- ・藤井進也、工藤和俊、大築立志、小田伸午、世界最速ドラマーはどれくらいすばやく叩けるか？ 第59回日本体育学会、早稲田大学、東京、2008.9
- ・山田陽介、走井裕香子、木村みさか、小田伸午：高齢者に適用できる精度の高い身体活動量評価方法の提案 第10回日本健康支援学会、福岡、2009.2
- ・進矢正宏、小田伸午 歩行中踏み外す可能性を知っている際の“proactive strategy” 第138回京都体育学会 2009.3 同志社大学
- ・藤井慶輔、小田伸午 バスケットボール熟練者のドリブル走動作における肩と腰の回転 第138回京都体育学会 2009.3
- ・鈴木茉莉緒、進矢正宏、高橋徹、糸山克寿、奥乃博、小田伸午：“西洋古典歌唱における発声時の頭部、頸部、胸部の姿勢変化” 京都体育学会、2009.3
- ・山田陽介：身体組成とエネルギー消費量の測定法とその応用—二重標識水（DLW）法を用いた検証。第21回ランニング学会大会若手講演、大阪、2009.3
- ・藤井進也、平島雅也、工藤和俊、中村仁彦、大築立志、小田伸午、「熟練音楽動作にみられる音圧制御のための自由度動員ストラテジ」、早稲田大学スポーツ科学研究センターシンポジウム スポーツと脳、2009.3 早稲田大学

2. 教育活動

【学内】

①全学共通教育：

担当授業：運動科学、スポーツ実習（二軸動作）

②学部教育：

担当授業：運動制御ゼミⅠA、運動制御ゼミⅠB、運動制御実験、認知行動科学入門

③大学院教育：

担当授業：身体運動学、行動制御学演習1、認知・行動科学基礎論、共生人間学研究Ⅰ、共生人間学研究Ⅱ、共生人間学特別研究Ⅰ、共生人間学特別研究Ⅱ、行動制御学特別演習1、行動制御学特別演習2、認知・行動科学特別セミナー

【学外】

- ・高校大学連携：京都府立向陽高校にてスポーツ科学の授業担当
- ・大阪市立桜宮高校にてスポーツ科学の授業担当

3. その他の活動

【学内委員】

- ・全学共通教育システム委員会
- ・基礎教育専門委員会
- ・教養教育専門委員会
- ・D群科目部会 部会長

【学会活動】

- ・日本体育学会会員
- ・京都体育学会副会長
- ・日本体力医学会幹事
- ・日本運動生理学会会員
- ・日本バイオメカニクス学会会員
- ・日本トレーニング科学会会員

【講演】

- ・兵庫県高等学校体育研究会講演 2008年5月20日 舞子高校 「体育教師なら知っておきたいからだのこと」
- ・スポーツ「二軸動作」講習会 2008年8月22日、23日 長崎県嬉野市公会堂、体育館 主催 嬉野市サッカー協会
- ・福岡県理学療法士会講演 「動作の誤解を解く」 2008年8月23日、24日 福岡県久留米市エールピア久留米、久留米リハビリテーション学院
- ・大阪理学療法士会講演 「PTなら知っておきたいからだのこと」 2008年10月26日 四条畷学園短期大学
- ・京都府立学校用語教諭研究会講演 「からだの動かし方の基本について」 2008年10月30日 京都府立桂高校
- ・大阪市立汎愛高校講演 「スポーツ選手なら知っておきたいからだのこと」 2008年12月16日 大阪市立汎愛高校
- ・山形県飽海地区高等学校野球連盟強化講習会 「野球選手なら知っておきたいからだのこと」 2009年2月15日 山形県立酒田西高等学校

山本 行男（教授）

1. 研究業績

【論文】

- ・ M. Taki, T. Murakawa, T. Nakamoto, M. Uchida, H. Hayashi, K. Tanizawa, Y. Yamamoto, and T. Okajima, Further Insight into the Mechanism of Stereoselective Proton Abstraction by Bacterial Copper Amine Oxidase, *Biochemistry* 2008, 47,

7726-7733.

- ・ S. Iyoshi, M. Taki, and Y. Yamamoto, A Rosamine-based Fluorescent Chemosensor for Selective Detection of Silver(I) in Aqueous Solution. *Inorg. Chem.*, 2008, 47, 3946-3949.
- ・ T. Hirayama, M. Taki, Y. Kashiwagi, M. Nakamoto, A. Kunishita, S. Itoh, Y. Yamamoto, Colorimetric Response to Mercury-induced Abstraction of Triethylene Glycol Ligand from Gold Nanoparticle Surface. *Dalton Transactions*, 2008, 4705-4707.
- ・ Y. Mizuta, S. Kazama, Y. Ohba, N. Sakai, Y. Yamamoto, and Y. Shimoyama, Development of A Control System for Pulsed-electron Spin Resonance Spectrometers. *Review of Scientific Instruments*. 2008, 79, 044705.
- ・ M. Taki, M. Desaki, A. Ojida, S. Iyoshi, T. Hirayama, I. Hamachi, Y. Yamamoto, Fluorescence Imaging of Intracellular Cadmium Using a Dual-Excitation Ratiometric Chemosensor. *J. Am. Chem. Soc.*, 2008, 130, 12564-12565.

【学会発表】

- ・ 平山祐・多喜正泰・山本行男、希土類錯体を用いたペプチドタグ蛍光認識システムの開発、第21回配位化合物の光化学討論会、北里大学、8月・2008年
- ・ 平山祐・多喜正泰・山本行男、蛍光性希土類錯体を用いた新しいペプチドタグプローブシステムの開発、第3回バイオ関連化学合同シンポジウム、東京工業大学、9月・2008年
- ・ 旭史悦・多喜正泰・山本行男、新規ピリジン含有環状ニッケル錯体の構造と物性および外部配位子との挙動、第58回錯体化学討論会、金沢大学、9月・2008年
- ・ 伊吉祥平・多喜正泰・山本行男、チオエーテル含有多座配位子を用いた銀および銅(I)錯体の構造と発光特性、第58回錯体化学討論会、金沢大学、9月・2008年
- ・ 平山祐・多喜正泰・山本行男、非天然ペプチドタグを認識する二核亜鉛含有希土類錯体の開発、第58回錯体化学討論会、金沢大学、9月・2008年
- ・ S. Iyoshi, M. Taki, A. Ojida, I. Hamachi, and Y. Yamamoto, Ratiometric Fluorescence Imaging of Intracellular Cadmium Using a Coumarin-based Chemosensor, The 4th Asian Biological Inorganic Chemistry Conference (AsBIC IV), Jeju, Korea, November, 2008.
- ・ T. Hirayama, M. Taki, and Y. Yamamoto, Artificial Peptide Tag Recognition by Dinuclear Zinc Complex and Luminescence Switching with Lanthanide Complex, The 4th Asian Biological Inorganic Chemistry Conference (AsBIC IV), Jeju, Korea, November, 2008.
- ・ M. Taki, T. Murakawa, T. Okajima, K. Tanizawa, and Y. Yamamoto, Mechanistic Insights into Stereoselective Proton Abstraction by Bacterial Copper Amine Oxidase, The 4th Asian Biological Inorganic Chemistry Conference (AsBIC IV), Jeju, Korea, November, 2008.
- ・ M. Taki and Y. Yamamoto, Highly Selective Ratiometric Fluorescent Probe with Picomolar sensitivity for Cadmium, ICBIC XIII, 13th International Conference on Biological Inorganic Chemistry, Vienna, Austria, July, 2007.
- ・ 旭史悦・多喜正泰・山本行男、ピリジン環含有環状ニッケル錯体と外部配位子との結合挙動、日本化学会第89春季年会、日本大学、3月・2009年
- ・ 伊吉祥平・多喜正泰・山本行男、チオエーテル系多座配位子による銅一価酸化還元挙動の制御および隣接蛍光団の発光挙動に与える影響、日本化学会第89春季年会、日本大学、3月・2009年
- ・ 平山祐・多喜正泰・山本行男、ヌンチャク型ペプチドを利用した希土類亜鉛蛍光センサーの開発、日本化学会第89春季年会、日本大学、3月・2009年

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育：「基礎有機化学A・B」「基礎化学実験」「生活と環境の化学」
- ②学部教育：「物質構造論」「課題演習：分子の構造と機能」「自然科学特別ゼミナールA・B」（以上、総合人間学部）
- ③大学院教育：「相関環境学研究Ⅰ・Ⅱ」「分子生体相関論1」「分子環境相関論演習1・2」「分子・生命環境基礎論」（以上、人間・環境学研究科 博士前期課程）、「相関環境学特別研究Ⅰ・Ⅱ」「分子環境相関論特別演習1・2」「分

子・生命環境論特別セミナー」（以上、人間・環境学研究科 博士後期課程）

3. その他の活動

【学内委員】

- ・全学共通教育システム委員会
- ・基礎教育専門委員会
- ・基礎教育専門委員会化学部会

【講演】

- ・山本行男・吉田あゆみ、基礎化学実験の創設と Web 動画資料の作成、第 4 回東北大学特色 GP シンポジウム、東北大学、11 月・2008 年

田地野 彰（教授）

1. 研究業績

【著書】

（共著）

- ・田地野彰 2009.03 「総合研究大学における EAP カリキュラム開発—専門教育との有機的連携に向けて—」、福井希一他（編）『ESP 的バイリンガルを目指して—大学英語教育の再定義—』、大阪大学出版会、130-142 頁

【論文】

- ・田地野彰 2008.6 「理系学生に必要な語彙とは—学術語彙データベースに基づいて—」、『英語教育』、第 57 巻、第 3 号、16-19 頁
- ・田地野彰 2008.12 「新しい学校文法の構築に向けて—英文作成における「意味順」指導の効果検証—」、小山俊輔、西堀わか子、田地野彰（編）『平成 20 年度英語の授業実践研究』、奈良女子大学国際交流センター、8-21 頁
- ・田地野彰、寺内一、金丸敏幸、マスワナ紗矢子、山田浩 2008.12 「英語学術論文執筆のための教材開発に向けて—論文コーパスの構築と応用—」、『京都大学高等教育研究』、14 号、111-121 頁
- ・Lee, Nancy and Tajino, Akira 2008.12 'Understanding students' perceptions of difficulty with academic writing for teacher development: A case study of the University of Tokyo writing program.' *Kyoto University Researches in Higher Education*, No. 14. pp. 1-11.
- ・金丸敏幸、笹尾洋介、田地野彰 2009.3 「京都大学学術論文コーパスを用いた学術語彙リストの作成」、『言語処理学会第 15 回年次大会論文集』、737-740 頁
- ・田地野彰 2009.3 「大学英語教育の展望—『学術研究に資する英語教育』の充実にに向けて—」、『言語理論の展開と応用—西川盛雄教授退官記念論文・随筆集—』、英宝社、19-35 頁

【学会発表】

- ・Tajino, Akira 2008.5 'Curriculum Reform at a Multi-Disciplinary Research University in Japan: Towards a Linkage between EGAP and ESAP.' *Educational Linguistics 2008—Innovations and Practice in Finland and Japan*. Kouvola: University of Helsinki.
- ・田地野彰、寺内一、マスワナ紗矢子 2008.9 「文系・理系学術論文のジャンル分析—EAP 語彙の観点から—」、大学英語教育学会第 47 回全国大会、東京：早稲田大学
- ・金丸敏幸、笹尾洋介、田地野彰 2009.3 「京都大学学術論文コーパスを用いた学術語彙リストの作成」、言語処理学会第 15 回年次大会、鳥取：鳥取大学

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育 英語 I A・B、英語 II A・B
- ②学部教育 英語構造・表現論演習 A（総合人間学部）

- ③大学院教育（博士前期課程） 共生人間学Ⅰ・Ⅱ、教育言語学Ⅱ、外国語教育基礎論、外国語教育基礎論演習；（博士後期課程）共生人間学特別研究Ⅰ・Ⅱ、外国語教育論特別演習Ⅰ・Ⅱ、外国語教育論特別セミナー（人間・環境学研究科）

【学外】

- ・奈良女子大学夏季英語講座（講座企画責任者）
- ・京都府立大学 英語Ⅰ、英語Ⅱ、英語科教育法Ⅰ
- ・京都府立向陽高校（高大連携プロジェクト）

3. その他の活動

【学内委員】

- ・全学共通教育システム委員会
- ・外国語教育専門委員会
- ・国際交流委員会
- ・国立七大学外国語教育連絡協議会

【学外委員】

- ・甲子園大学外部評価委員

【講演】

- ・田地野彰 2008.10 「総合研究大学の英語教育を考える」『筑波大学教育講演会』（主催：教養教育機構、外国語センター、筑波大学FD委員会）、つくば：筑波大学

赤松 紀彦（教授）

1. 研究業績

【著書】

（共著）

- ・赤松紀彦、小松謙、山崎福之編著 2009.3 『能楽と崑曲 日本と中国の古典演劇を楽しむ』汲古書院
- ・道坂昭廣、赤松紀彦ほか著 2009.3 『中国語の世界—北京欢迎你』大地社

【論文】

- ・赤松紀彦、金文京、小松謙ほか 2008.12 「元刊雜劇の研究（五）「李太白貶夜郎」全訳校注（前編）」『京都府立大学学術報告 人文・社会』第60号、1-40頁
- ・「『元刊古今雜劇三十種』研究在日本」 2009.3 「中国伝統文化与元代文献国際学術研究会会議論文集」中国・中華書局 354-365頁

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育：「中国語ⅠA・B」「中国語ⅡA・B」
- ②学部教育：「東アジア比較芸能論演習A・B」「東アジア比較芸能論B」「文化環境学入門B」（総合人間学部）
- ③大学院教育：「共生人間学Ⅰ・Ⅱ」「東アジア比較芸能論」「東アジア比較芸能論演習」（以上、人間・環境学研究科）

3. その他の活動

【学内委員】

- ・全学共通教育システム委員会
- ・全学共通教育実施委員会
- ・CALLシステム運用委員会
- ・初修外国語群会代表

田中 真介（准教授）

1. 研究業績

【著書】

- ・田中真介（監修）、乳幼児保育研究会（編著） 2009.2 『発達がわかれば子どもが見える』 ぎょうせい

【論文】

- ・田中真介 2008.11 「幼児期における系列円描画による発達診断の方法」国際幼児教育学会第29回大会論文集、28頁
- ・田中真介 2008.4 「幼児期後期から児童期の発達～「繊細の精神」を育てる～」幼年教育、154号、23-35頁
- ・田中真介 2008.5 「情熱の行方」応用心理学研究、特集「応用心理学と応用心理学会はどうあるべきか」33-2号、168-169頁
- ・田中真介 2008.8 「児童期初期における自己信頼性の形成と教育指導」日本応用心理学会第75回大会発表論文集、44頁

【学会発表】

- ・田中真介 2008.9 「児童期初期における自己信頼性の形成と教育指導」日本応用心理学会第75回大会
- ・田中真介 2008.11 「幼児期における系列円描画による発達診断の方法」国際幼児教育学会第29回大会

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育：全学共通科目「発達論A、B」「スポーツ指導法実習A、B」「スポーツ実習IA、IB」を担当。
- ②学部教育：学生部及び保健管理センターで全学の学生を対象とするスポーツ指導相談と健康教育を担当。
- ③大学院教育：大学院人間・環境学研究科で「共生人間学研究I、II」「認知・行動科学総合演習」「行動発達論2」「行動制御学演習4」を担当。

【学外】

- ・膳所高等学校-京都大学・高大連携プロジェクト（学力向上フロンティアハイスクール事業）として、膳所高等学校生徒を対象とした京都大学公開講座、人文・社会科学Aコース及びBコース「霊長類の子どもの発達」を担当。
- ・花園大学「生命科学I、II」を担当。

3. その他の活動

【学内委員】

- ・B群科目部会、D群科目部会、少人数教育部会の各委員

【社会活動】

- ・日本応用心理学会理事、「応用心理学研究」編集委員
- ・京都府立養護学校・地域等連携事業及び特別支援教育体制推進事業『教育相談支援チーム』専門相談員・支援地域巡回相談員
- ・京都・島根ジフテリア予防接種被害研究会副代表（2008年度「薬害ヤコブ人権賞」授賞）

【その他】

大学院人間・環境学研究科共生人間学専攻（協力教員）
学生部スポーツ指導・相談室（専任相談員）及び保健管理センター（非常勤講師）

Dalsky David Jerome（准教授）

1. 研究業績

【学会発表】

Dalsky, D. (2008, May). Students' Perceptions of Difficulties with Academic Writing: A Report from Kyoto University Academic Writing Courses. Educational Linguistics 2008: Innovations and Practice in Finland and Japan, University of

Helsinki, Kouvula, Finland.

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育：「英語ⅠA・B」「英語ⅡA・B」(Academic Writing and Reading)
- ③大学院教育：Intercultural Understanding Pedagogy

3. その他の活動

【その他】

KUINEP Course Instructor: Intercultural Understanding

Writing Center Summer Institute participant (University of Wisconsin-Madison) July, 2008

Stewart Timothy William (准教授)

1. 研究業績

【論文】

- ・ Stewart, T. 2008.11. Struggles for autonomy in Japanese higher education. *OnCUE Journal*, 2(3) 228-240.

【学会発表】

- ・ Rilling, S., Dantas-Whitney, M., Stewart, T., Andrade, M., & Savova, L. 2009.3. Panel participant—"Innovation in 21st century classroom practices," TESOL 2009 Annual Convention, Denver, Colorado.

2. 教育活動

【学外】

- ・ 2008.4-2009.3. Book editor for the TESOL Classroom Practice series volume *Insights on Teaching Speaking in TESOL*.
- ・ 2008.6-2009.3. Manuscript reviewer for the JALT publication *The Language Teacher*

3. その他の活動

【学内委員】

- ・ 人事委員会 外国語（英語）教員の活動

【社会活動】

学会役員、学外委員など

桂山 康司 (准教授)

1. 研究業績

【論文】

- ・ 桂山康司 2008.12 「京都大学における「英語」—全学共通科目としての内実—」『京都大学高等教育研究』第14号、123-131頁

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育：「英語ⅠA・B」「英語ⅡA・B」
- ②学部教育：「西欧近代表象文化論ⅣA」「西欧近代表象文化論演習ⅣA・B」（以上、総合人間学部）「英語学英文学講読」「アメリカ文学講読」（以上、文学部）
- ③大学院教育：「共生文明学Ⅰ・Ⅱ」「イギリス近現代文化論2A」「西欧文化論演習2B」（以上、人間・環境学研究科、博士前期課程）「共生文明学特別研究Ⅰ・Ⅱ」「歴史文化社会論特別セミナー」（以上、人間・環境学研究科、博士後

期課程)

【学外】

- ・ 京都府立大学 英語 A、英語 II A
- ・ 大阪薬科大学 異文化言語演習 1・2

3. その他の活動

【学内委員】

- ・ オープンキャンパス委員会委員
- ・ 全学共通教育システム委員会 外国語教育専門委員会委員
- ・ オープンキャンパス対応委員会委員長 (人間・環境学研究所)

【社会活動】

- ・ 日本ミルトン協会企画委員
- ・ 日本ホプキンス協会関西支部運営委員

第三部門 (情報メディア教育開発部門)

小山田 耕二 (教授)

1. 研究業績

【論文】

(査読付学術雑誌)

- ・ 河村拓馬、坂本尚久、山崎晃、小山田耕二、“粒子ベースボリウムレンダリングのための粒子密度推定法—大規模非構造ボリウムデータに対する適用—”、可視化情報学会論文誌、Vol. 28、No. 11、pp. 69-77、2008
- ・ T. Tanaka, T. Itoh, N. Sakamoto and K. Koyamada, “An Interactive Approach for Hierarchical Parameter Optimization”, Journal of Fluid Science and Technology, Vol. 3, No. 4, pp. 586-597, 2008

【その他の著作物】

(解説)

- ・ 坂本尚久、小山田耕二、“可視化プログラミングの基礎 (1) 有限要素法とボリウムレンダリング”、計算工学会、Vol. 13、No. 4、pp. 28-34、2008

【学会発表】

(査読付国際会議)

- ・ N. Sakamoto, D. Zhongming, T. Kawamura and K. Koyamada, “Hardware-Accelerated Particle-based Volume Rendering for Multiple Irregular Volumes”, Proceedings of the 4th International Symposium on Visual Computing (ISVC 2008), pp. 970-979, 2008
- ・ N. Sakamoto, T. Kawamura, M. Kioka, K. Koyamada and K. Sakamaki, “Spatiotemporal Analysis of Morphological Changes in Cell Death Using Multiple Volume Visualization”, IEEE Visualization Proceedings Compendium, pp. 52-53, 2008
- ・ D. Zhongming, T. Kawamura, N. Sakamoto and K. Koyamada, “GPU Acceleration of Improved Particle-based Volume Rendering for Irregular-grid Data”, Proceedings of International Conference on System Simulation and Scientific Computing (ICSC 2008), pp. 685-692, 2008
- ・ N. Sakamoto, H. Kuwano, T. Kawamura, Y. Ebara, K. Koyamada and K. Nozaki, “Distributed Particle-based Volume Rendering for Irregular Volumes”, The first International Workshop on Super Visualization (IWSV08), CD-ROM, 2008
- ・ K. Koyamada, N. Sakamoto and S. Tanaka, “A Particle Modeling for Rendering Irregular Volumes”, International Conference on Computer Modeling and Simulation (UKSIM 2008), pp. 372-377, 2008
- ・ T. Tanaka, T. Itoh, N. Sakamoto and K. Koyamada, “An Interactive Approach for Hierarchical Parameter Optimization”,

Poster Proceedings of IEEE Pacific Visualization Symposium 2008 (PacificVis 2008), pp. 29-30, 2008

- ・ T. Kawamura, N. Sakamoto, A. Yamasaki and K. Koyamada, “A Stochastic Approach for Rendering Irregular Volumes”, Poster Proceedings of IEEE Pacific Visualization Symposium 2008 (PacificVis 2008), pp. 31-32, 2008
- ・ N. Sakamoto, K. Koyamada, A. Saito, A. Kimura and S. Tanaka, “Multi-Volume Rendering Using Particle Fusion”, Poster Proceedings of IEEE Pacific Visualization Symposium 2008 (PacificVis 2008), pp. 33-34, 2008 (Best Poster Award)
- ・ H. Kuwano, A. Yamasaki, N. Sakamoto, Y. Ebara and K. Koyamada, “Distributed Visualization of Huge Irregular Grid Data by Particle-based Volume Rendering”, Poster Proceedings of IEEE Pacific Visualization Symposium 2008 (PacificVis 2008), pp. 43-44, 2008

(全国大会・研究会)

- ・ 河村拓磨、坂本尚久、木岡樹、酒巻和弘、小山田耕二、“複数ボリュームレンダリングを用いた細胞死における細胞形状変化の時空間解析”、可視化情報学会全国講演会（釧路 2008）講演論文集、pp. 159-160、2008
- ・ 渡場康弘、坂本尚久、酒井晃二、小山田耕二、土井章男、金澤正憲、“DT-MRI を使った脳神経繊維の類似度判定法”、可視化情報学会 第 36 回可視化情報シンポジウム講演論文集、pp. 85-86、2008
- ・ 田中哲平、坂本尚久、小山田耕二、“階層型応答曲面法”、第 27 回日本シミュレーション学会大会、pp. 283-286、2008
- ・ 宮本純子、坂本尚久、小山田耕二、田中覚、“サブピクセル法を取り入れたモンテカルロ・ボリューム・グラフィックス”、第 27 回日本シミュレーション学会大会、pp. 307-310、2008
- ・ 桑野浩、河村拓馬、山崎晃、坂本尚久、江原康生、小山田耕二、“粒子ベースボリュームレンダリングによる大規模非構造格子向け分散可視化”、第 27 回日本シミュレーション学会大会、pp. 311-314、2008
- ・ 河村拓馬、坂本尚久、小山田耕二、“粒子ベースボリュームレンダリングの高画質化に関する研究”、第 27 回日本シミュレーション学会大会、pp. 315-318、2008

2. 教育活動

【学内】

- ①全学共通教育：研究の世界 A、研究の世界 B
- ②学部教育：生体医療工学、基礎情報処理
- ③大学院教育：可視化シミュレーション学、心臓・神経生理およびシミュレーション入門

【学外】

- ・ 上智大学「ビジュアライゼーション」

3. その他の活動

【学内委員】

- ・ 高等教育研究開発推進機構執行協議会委員
- ・ 全学共通教育システム委員会委員
- ・ 全学情報ネットワーク委員会委員
- ・ 情報教育専門委員会委員
- ・ FD 研究検討委員会委員
- ・ 大型計算機システム運用委員会委員
- ・ 教育情報化タスクフォース委員

【社会活動】

- ・ 日本シミュレーション学会副会長・編集委員会委員長
- ・ 可視化情報学会理事・論文誌編集委員長
- ・ システム制御情報学会理事
- ・ 国際会議 IEEE Pacific Vis 2008 Symposium Co-Chair

【講演】

- ・ “A stochastic approach for rendering irregular volumes,” The University of Manchester, Apr. 2008
- ・ “A System for Visualization of Large Irregular Volume Datasets on a TDW,” Peking University, Oct. 2008
- ・ “A System for Visualization of Large Irregular Volume Datasets on a Tiled Display Wall,” University of Texas at Austin, Nov. 2008

酒井 晃二 (助教)

1. 研究業績

【論文】

(原著論文)

- ・ Sakai K, Yamada K, Oouchi H and Hishimura T, Numerical Simulation Model of Hyperacute / Acute Stage White Matter Infarction, *Magn Reson Med Sci*, 2008 December: 7(4): 187-194

(国際会議論文・査読あり)

- ・ K. Sakai, K. Yamada, S. Mori and T. Nishimura, “Can Diffusion Tensor Imaging Detect the Degree of Neuronal Cell Membrane Damage in Stroke Patients? : A Patient Study”, Proceedings of the International Society for Magnetic Resonance in Medicine, ISMRM 16th Scientific Meeting, Toronto, Canada, 3-9 May 2008, p. 1959
- ・ K. Sakai, T. Azuma, S. Mori, K. Koyamada and S. Tsutsumi, “Towards a Diffusion Standard Ruler: Rigid Diffusion Phantom”, Proceedings of the International Society for Magnetic Resonance in Medicine, ISMRM 16th Scientific Meeting, Toronto, Canada, 3-9 May 2008, p. 1822
- ・ K. Sakai, T. Azuma and S. Mori, “Rigid Diffusion Phantom: Acquisition and Simulation”, Proceedings of the 30th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society (EMBC 2008), Vancouver, Canada, 20-24 August 2008, No. ThBPo06.2

2. 教育活動

3. その他の活動

【社会活動】

- ・ 可視化情報学会論文誌編集委員および可視化情報学会幹事 (H18.9.7 より)

【その他】

- ・ 京都大学学術研究振興財団海外渡航助成金により1カ年 (平成19年10月1日～平成20年9月30日) Johns Hopkins University, School of Medicine, Department of Radiology において Visiting Faculty

坂本 尚久 (特定助教)

1. 研究業績

【論文】

(査読付学術雑誌)

- ・ 河村拓馬、坂本尚久、山崎晃、小山田耕二、“粒子ベースボリウムレンダリングのための粒子密度推定法—大規模非構造ボリウムデータに対する適用—”, 可視化情報学会論文誌、Vol. 28、No. 11、pp. 69-77、2008
- ・ T. Tanaka, T. Itoh, N. Sakamoto and K. Koyamada, “An Interactive Approach for Hierarchical Parameter Optimization”, Journal of Fluid Science and Technology, Vol. 3, No. 4, pp. 586-597, 2008

【その他の著作物】

(解説)

- ・ 坂本尚久、小山田耕二、“可視化プログラミングの基礎 (1) 有限要素法とボリウムレンダリング”、計算工学会、Vol. 13、No. 4、pp. 28-34、2008

【学会発表】

(査読付国際会議)

- ・ N. Sakamoto, D. Zhongming, T. Kawamura and K. Koyamada, “Hardware-Accelerated Particle-based Volume Rendering for Multiple Irregular Volumes”, Proceedings of the 4th International Symposium on Visual Computing (ISVC 2008), pp. 970-979, 2008
- ・ N. Sakamoto, T. Kawamura, M. Kioka, K. Koyamada and K. Sakamaki, “Spatiotemporal Analysis of Morphological Changes in Cell Death Using Multiple Volume Visualization”, IEEE Visualization Proceedings Compendium, pp. 52-53, 2008
- ・ D. Zhongming, T. Kawamura, N. Sakamoto and K. Koyamada, “GPU Acceleration of Improved Particle-based Volume Rendering for Irregular-grid Data”, Proceedings of International Conference on System Simulation and Scientific Computing (ICSC 2008), pp. 685-692, 2008
- ・ N. Sakamoto, H. Kuwano, T. Kawamura, Y. Ebara, K. Koyamada and K. Nozaki, “Distributed Particle-based Volume Rendering for Irregular Volumes”, The first International Workshop on Super Visualization (IWSV08), CD-ROM, 2008
- ・ K. Koyamada, N. Sakamoto and S. Tanaka, “A Particle Modeling for Rendering Irregular Volumes”, International Conference on Computer Modeling and Simulation (UKSIM 2008), pp. 372-377, 2008
- ・ T. Tanaka, T. Itoh, N. Sakamoto and K. Koyamada, “An Interactive Approach for Hierarchical Parameter Optimization”, Poster Proceedings of IEEE Pacific Visualization Symposium 2008 (PacificVis 2008), pp. 29-30, 2008
- ・ T. Kawamura, N. Sakamoto, A. Yamasaki and K. Koyamada, “A Stochastic Approach for Rendering Irregular Volumes”, Poster Proceedings of IEEE Pacific Visualization Symposium 2008 (PacificVis 2008), pp. 31-32, 2008
- ・ N. Sakamoto, K. Koyamada, A. Saito, A. Kimura and S. Tanaka, “Multi-Volume Rendering Using Particle Fusion”, Poster Proceedings of IEEE Pacific Visualization Symposium 2008 (PacificVis 2008), pp. 33-34, 2008 (Best Poster Award)
- ・ H. Kuwano, A. Yamasaki, N. Sakamoto, Y. Ebara and K. Koyamada, “Distributed Visualization of Huge Irregular Grid Data by Particle-based Volume Rendering”, Poster Proceedings of IEEE Pacific Visualization Symposium 2008 (PacificVis 2008), pp. 43-44, 2008

(全国大会・研究会)

- ・ 河村拓磨、坂本尚久、木岡樹、酒巻和弘、小山田耕二、“複数ボリュームレンダリングを用いた細胞死における細胞形状変化の時空間解析”、可視化情報学会全国講演会（釧路 2008）講演論文集、pp. 159-160、2008
- ・ 渡場康弘、坂本尚久、酒井晃二、小山田耕二、土井章男、金澤正憲、“DT-MRI を使った脳神経繊維の類似度判定法”、可視化情報学会 第 36 回可視化情報シンポジウム講演論文集、pp. 85-86、2008
- ・ 田中哲平、坂本尚久、小山田耕二、“階層型応答曲面法”、第 27 回日本シミュレーション学会大会、pp. 283-286、2008
- ・ 宮本純子、坂本尚久、小山田耕二、田中覚、“サブピクセル法を取り入れたモンテカルロ・ボリューム・グラフィックス”、第 27 回日本シミュレーション学会大会、pp. 307-310、2008
- ・ 桑野浩、河村拓馬、山崎晃、坂本尚久、江原康生、小山田耕二、“粒子ベースボリュームレンダリングによる大規模非構造格子向け分散可視化”、第 27 回日本シミュレーション学会大会、pp. 311-314、2008
- ・ 河村拓馬、坂本尚久、小山田耕二、“粒子ベースボリュームレンダリングの高画質化に関する研究”、第 27 回日本シミュレーション学会大会、pp. 315-318、2008

2. 教育活動

3. その他の活動

【社会活動】

- ・ 学会役員、学外委員など